

春採湖レポート2019

令和3年2月

春採湖調査会

目 次

1 水質部門

- A 春採湖の水質について 角田 富男 1 ページ

2 動物部門

- A ヒブナ・フナの産卵調査 針生 勤 3 ページ

- B ウチダザリガニの
捕獲調査結果について 蛭田 眞一 4 ページ

- C 春採湖で暮らす野鳥たち 釧路市立博物館 5 ページ

3 植物部門

- A 春採湖湖畔の植物 釧路市立博物館 6 ページ

- B 水生植物の動態について 神田 房行 7 ページ

- 春採湖ダイジェスト 8 ページ

春採湖の水質について



赤●：水質調査2地点 4月から11月まで毎月1回(計8回)

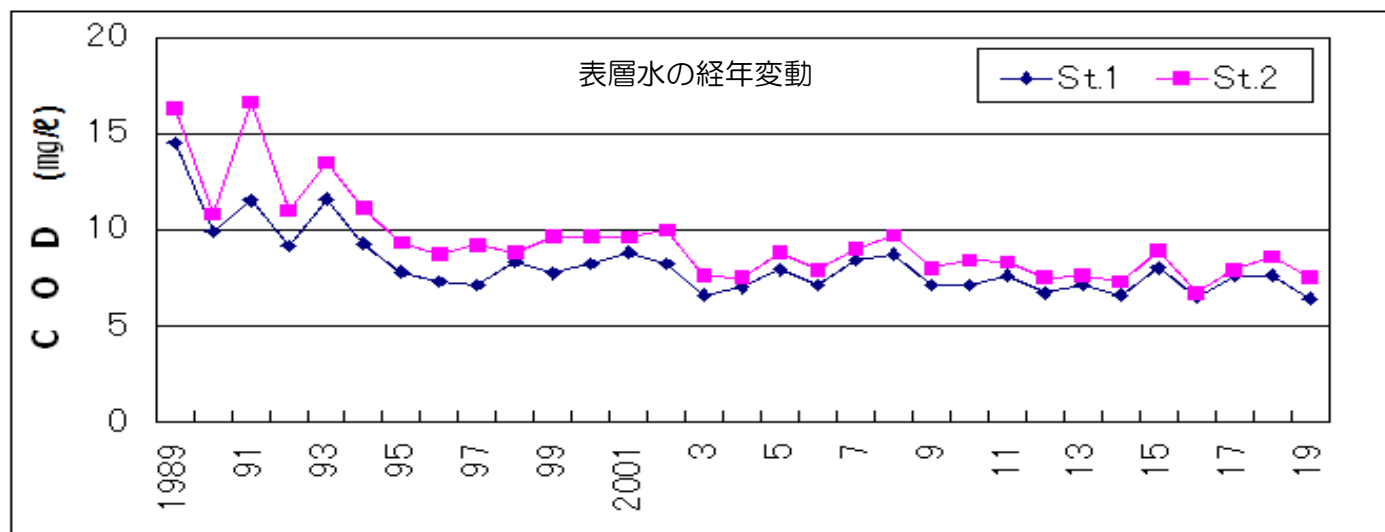
表層水的环境基準点(赤●：水質調査2地点)の平均値 (単位は mg/ℓ。ただしpHは単位なし)

年 度	C O D 化学的酸素要求量	C O D 75%値	D O 溶存酸素	S S 懸濁物	T-N 栄養塩類の全窒素	T-P 全リン	Cl ⁻ 塩 分	pH
2019	7.0	7.4	11.1	18	0.65	0.051	646	8.5
2018	8.1	8.7	11.3	16	0.68	0.057	789	8.5
環境基準値 湖沼B類型		5 以下	5 以上	15 以下	1 以下	0.1 以下		6.5 ~ 8.5

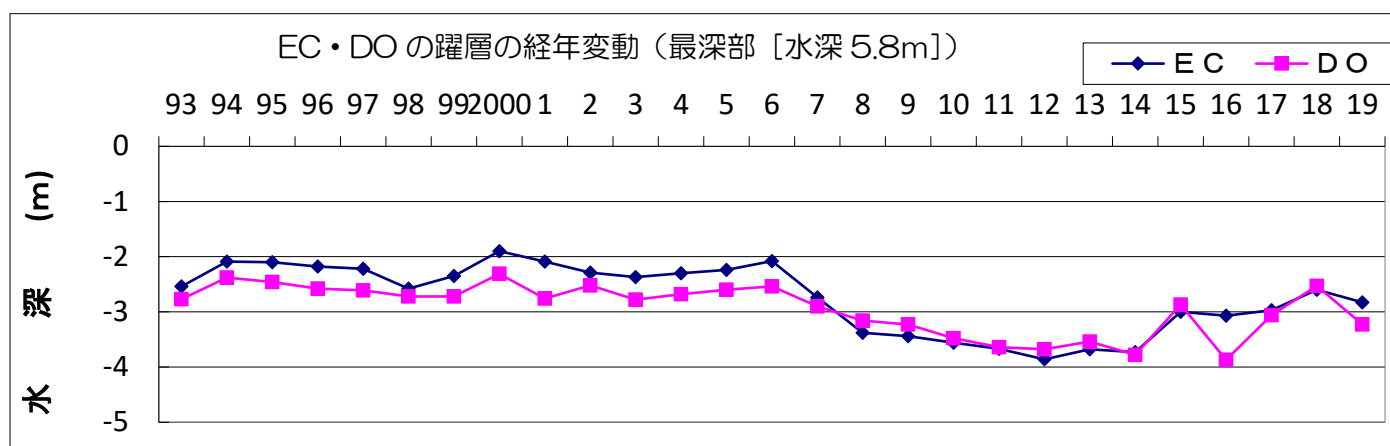
※ CODの環境基準値は調査値の低い方から、75%に相当する値を採用しており、年8回調査する春採湖では低い方から6番目(75%)の値となります。

水質汚濁の指標とされるCOD(化学的酸素要求量)の値は2018年と比較してそれぞれ大きく下がり、水質的には向上しました。しかし、環境基準値の「5mg/ℓ以下」には達しませんでした。

懸濁物(SS)は環境基準値を幾分超えましたが、溶存酸素(DO)や栄養塩類の全窒素(T-N)、全リン(T-P)は基準値内にありました。



春採湖のCODは 1990 年頃までは 15mg/ℓ 前後と高く推移し、日本の湖沼の水質で最も高くなった(ワースト1)年もありましたが、下水道の整備や湖尻の春採川の潮止め施設(旧施設)などに依って徐々に水質は向上し、最近 10 年ほどは 7~9mg/ℓ 台で推移しながら植物プランクトンの光合成活動の強弱に因り若干の年変動を繰り返しています。



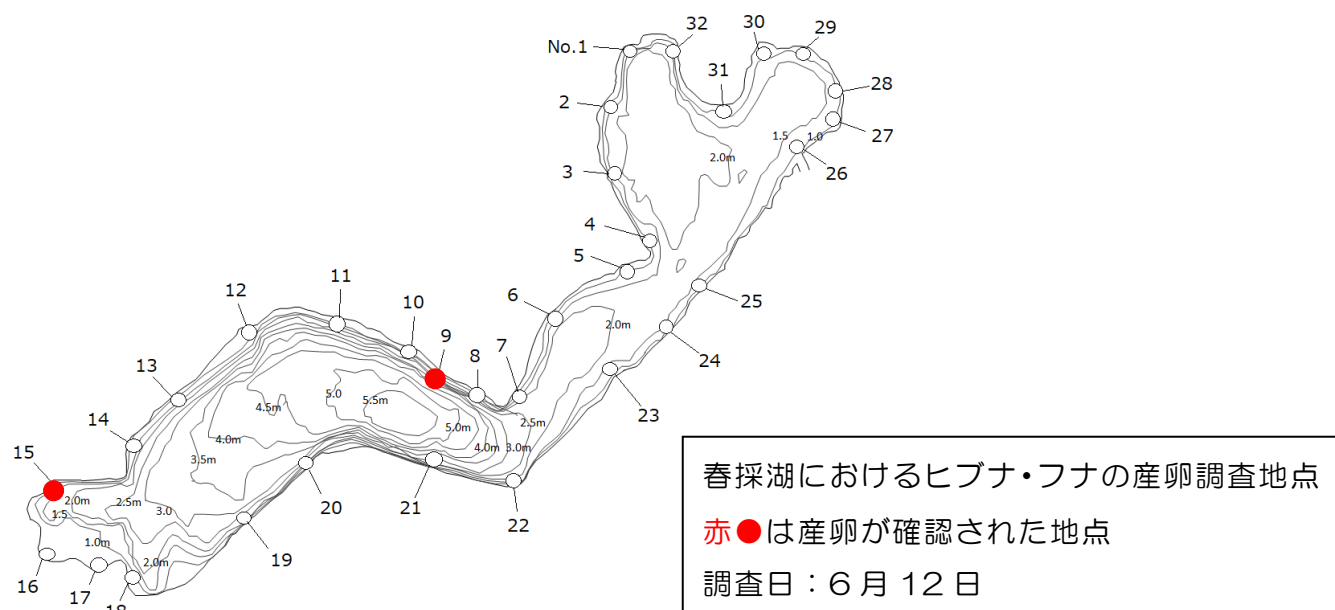
※水中の塩分濃度は電気伝導度(EC)で計測（塩分濃度が高いほど電気が伝わりやすい為）します。
電気伝導度(EC)が急上昇する層を塩分躍層といいます。
溶存酸素(DO)が急減して無酸素に近くなる層をDO躍層といいます。

春採湖は太平洋から逆流した海水が中底層に滞留する湖沼としても知られています。その高塩分水の層は無酸素で、魚類などは生息できません。

2006 年頃までの EC、DO 値から水深 2m 付近までの層はほぼ淡水で酸素も十分にあり、それ以深の中底層は高塩分が無酸素の層が占めていたことが分かります。その後、海水の逆流を抑える新潮止め堰が稼働し始めると、海水の逆流が少なくなり、高塩分や無酸素の層は徐々に下がって 2010 年代半ばには 1.5m ほども低下(水質的には向上)しました。

ただし最近数年間は荒天などで湖水が底層付近まで攪拌されることも多く、高塩分・無酸素層水が上昇の傾向を示しています。2019 年はまた少し下がり好転しましたが、次年度以降もこの傾向が持続するのか否か注視されるところです。

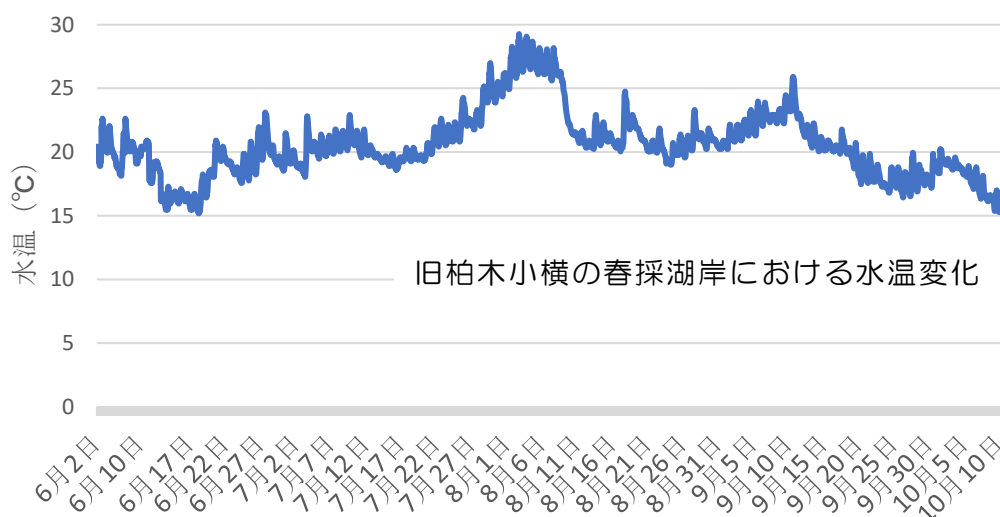
ヒブナ・フナの産卵調査



ヒブナ・フナの産卵状況と水草の生育状況について調査した結果、No.9とNo.15の2地点で産卵を確認しました。自然の水草への産卵数は例年並みでした。また、近年著しく減少していたリュウノヒゲモを2年連続して確認することができました。

ヒブナ・フナの重要な産卵巣であるマツモについては、湖内分布面積が2006年には絶滅寸前まで落ち込んだものの、2008年以降徐々に増加し、2016年にはマツモが豊富に見られた1986年当時のおよそ半分の面積にまで回復しています。

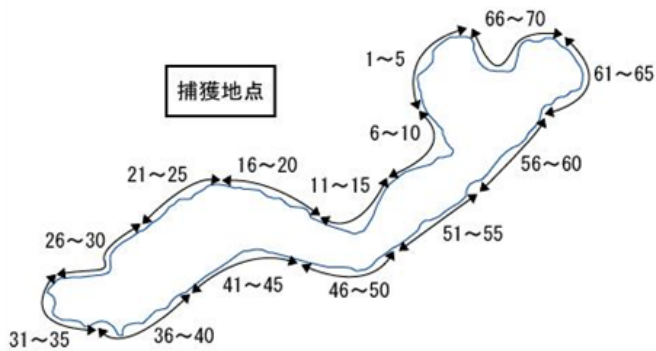
2019年についても旧柏木小学校周辺には大群落がみられ、近年は湖北部のチャランケチャシ周辺においても、ここ数年マツモが確認されるようになりました。このように、ヒブナ・フナの産卵環境が回復傾向にあります。



協力：春採湖調査会 調査員 針生勤

ウチダザリガニの捕獲調査 結果について

湖岸全域の捕獲結果（6月17-21日）



地点	♂	♀	合計
1～5	25	16	41
6～10	39	18	57
11～15	28	16	44
16～20	57	29	86
21～25	78	39	117
26～30	43	44	87
31～35	46	29	75
36～40	45	31	76
41～45	38	25	63
46～50	51	48	99
51～55	34	11	45
56～60	15	20	35
61～65	7	10	17
66～70	15	14	29
合計	521	350	871

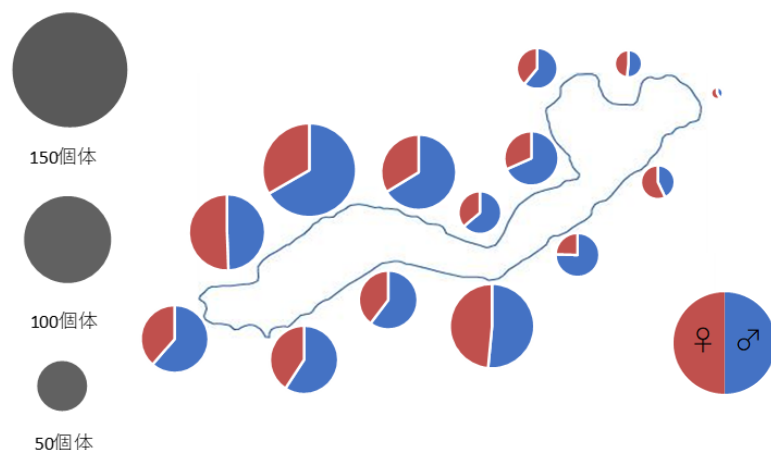
調査日：6月17～21日、9月24日～10月3日

捕獲数：湖岸全域 871 個体（雄 521 個体、雌 350 個体）

：湖北東部 576 個体（雄 298 個体、雌 278 個体） 合計 1447 個体

継続した捕獲により、2011 年以降最も少ない捕獲数となりました。また、捕獲される大型個体の割合が大きく減少し（2008 年の 7% から 2018 年の 0.2% まで減少）、捕獲数は 2016 年をピークに減少傾向にあります。2002 年にウチダザリガニの生息が確認されてから、2005～2006 年にはほとんど見られなくなってしまった水草（マツモ、リュウノヒゲモ他）群落でしたが、2008 年の釧路市による本格的な捕獲事業開始以後、回復の兆候が表れ、ここ 3, 4 年でそれがはっきり見えるようになってきています。

ウチダザリガニが侵入し、水草群落が一掃された水域で、捕獲活動によって回復する事例は春採湖以外では見られません。捕獲事業の成果と考えています。



協力：春採湖調査会 調査員 蛭田真一

春採湖で暮らす野鳥たち

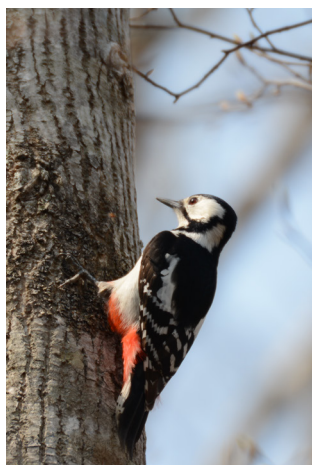
春採湖では約 140 種類もの野鳥が確認されています。小さな湖にも関わらず、この数は日本で確認されている野鳥の種数の 5 分の 1 にもなります。その理由としては、林、水辺、ヨシ原など、春採湖には多様な環境が備わっているからだと考えられます。ここでは湖畔で暮らす野鳥を紹介します。



シマエナガ（左）
1 年を通して観察できます。
林の中を動き回りながら食べ物を探しています。



アオジ（右）
繁殖のため渡来する渡り鳥です。オスは黄色い色が特徴的です。



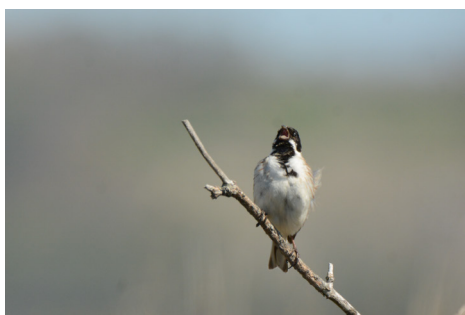
アカゲラ（上）
年中観察されます。
木に穴を開け、その中で子育てをします。



マガモ（左）
湖畔で繁殖する水鳥の 1 種です。ヒナはふ化後からすぐに自分で食べ物を探することができます。



カワアイサ（右）
春と秋に群れで観察されます。集団で水の中へ潜り、魚を狙っています。



オオジュリン（左）
大きな口を目一杯開けて、自分のなわばり誇示やメスにアピールしています。



ミヤマカケス（右）
秋によく観察され、ミズナラの実を木の隙間へ隠す行動が見られます。



ヒドリガモ（左）
秋に渡来し、湖が結氷するまで滞在。
水草を食べながら過ごします。

協力：釧路市立博物館

春採湖畔の植物

春採湖畔には広い緑地が広がり、釧路の市街地からも近く、植物を楽しむ人もたくさん訪れます。自然度は決して高く、豊かというわけではありませんが、観察できる植物は、野山、湿地、樹林の植物、寒地性の植物、外来植物と多種多様です。春採湖畔で見られる植物の一部を紹介します。

春～初夏



ウラホロイチゲ



エゾエンゴサク



オオバナノエンレイソウ



タチツボスミレ



エゾオオヤマハコベ



ヤマブキシヨウマ

夏～秋



オオハナウド



シウリザクラ



ハシドイ (釧路市の木)



ツリガネニンジン

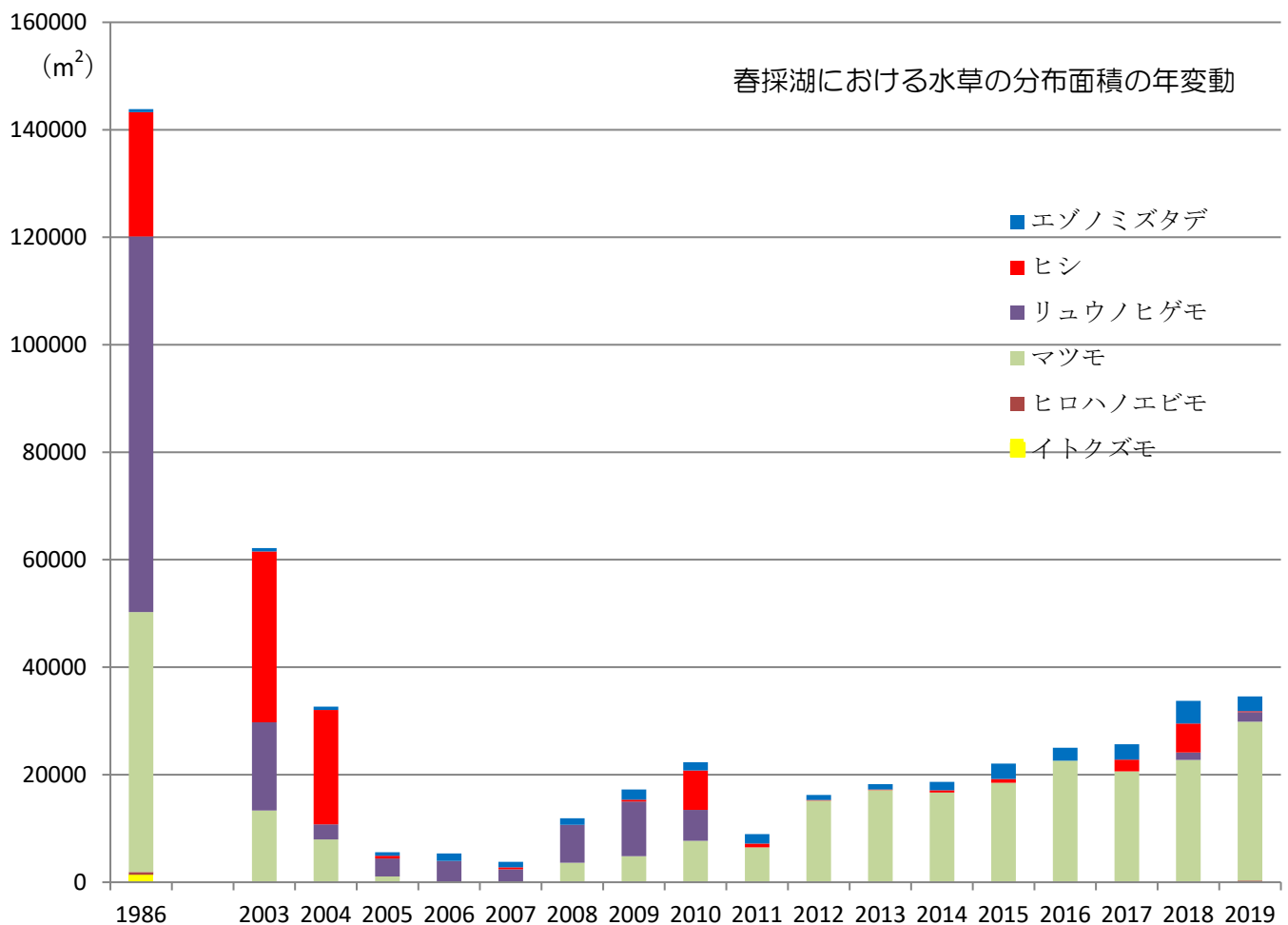


オオウバユリ



キツリフネ

水生植物の動態について



調査日：2019年8月4日

確認された水草：エゾノミズタデ、ヒシ、リュウノヒゲモ、マツモ、ヒロハノエビモの5種

エゾノミズタデ：1986年当時と同じ東部に分布が見られる

ヒシ：2019年は僅か1地区のみ分布 年変動が激しいのではないかとと思われる

リュウノヒゲモ：2018年から回復 2019年は分布面積が増えている

マツモ：2008年から回復 北東部のチャランケチャシなど分布域が拡大している

ヒロハノエビモ：1986年以来33年振りに確認 幣舞中学校下の湖岸地域のみ分布が見られる

イトクズモ：未確認

水草全体として、2007年頃にかなり減少したものの、再調査を開始した2003年の分布面積にかなり近づきました。ヒブナの主な産卵水草であるマツモについては2019年も増加してきており、ヒブナの産卵にとっていい環境になりつつあると思われます。

協力：春採湖調査会 調査員 神田房行

春 採 湖 ダイジェスト

春採湖に関する事で、情報がありましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

◆令和元年度に春採湖で行われた行事や出来事を紹介します◆

月	主 な 行 事 [] 内は実施主体等	特記事項
4月	20日:春採湖ネイチャーセンター開館 21日:春採湖畔探鳥会 [市立博物館](11月まで毎月1回開催)	12日:ヒバリ初鳴※ 11日:春採湖全面解氷
5月	18日:春採湖畔草花ウォッチング [市立博物館](9月まで毎月1回開催) 24日:ヒブナ生息実態調査[市立博物館](6月19日まで実施)	9日:サクラ開花日※
6月	5日:コアかがやき「春採湖なんでもパネル展」[市環境保全課](11日まで実施) 8日:しらべてみよう春採湖の昆虫 [市立博物館] 12日:ヒブナ生息実態調査[市立博物館] 17日:春採湖ウチダザリガニ捕獲事業 [市環境保全課](21日まで実施) 26日:塩分躍層調査 [市環境保全課](3月まで毎月1回調査)	
7月		
8月	10日:春採湖水まつり [春採湖の会] 31日:自然観察会・春採湖ウチダザリガニ捕獲事業市民参加行事 「春採湖のウチダザリガニ2019」 [市環境保全課]	4日:ヤマハギ開花※
9月	12日:しらべてみよう春採湖の昆虫 [市立博物館] 24日:春採湖ウチダザリガニ捕獲事業 [市環境保全課](10月3日まで実施)	
10月	31日:春採湖ネイチャーセンター閉館	17日:カエデ紅葉※
11月		
12月	4日:コア鳥取「春採湖なんでもパネル展」[市環境保全課](10日まで実施) 11日:コア大空「春採湖なんでもパネル展」[市環境保全課](17日まで実施) 18日:釧路市役所1階「春採湖なんでもパネル展」[市環境保全課] (24日まで実施)	7日:春採湖全面結氷
1月		
2月	15日:春採湖畔冬のいきもの観察会 [市立博物館]	
3月		

※ 札幌管区気象台ホームページより



「春採湖のウチダザリガニ2019」

発行／春採湖調査会

＜お問い合わせ先＞

春採湖調査会(庶務)
釧路市市民環境部
環境保全課自然保護担当
TEL:0154-31-4594
FAX:0154-23-4651

E-mail: ka-shizenhogo@city.kushiro.lg.jp

